

2005 年 4 月 28 日
東京大学医学部附属病院
応用ゲノム事務局

応用ゲノム懇談会のお知らせ

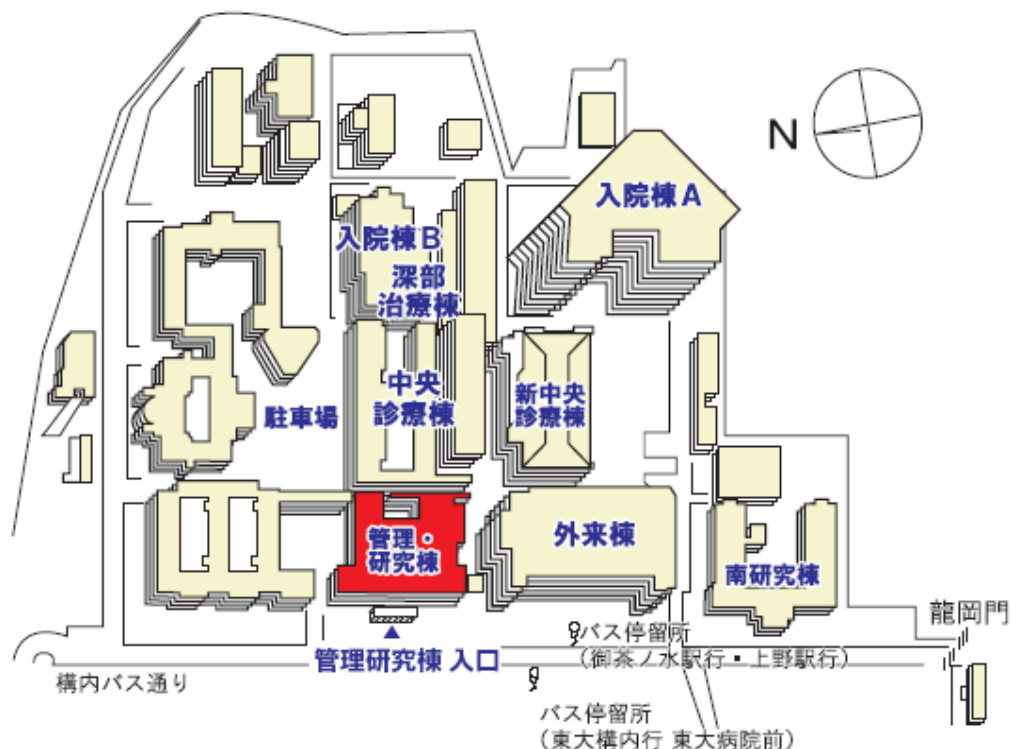
この度、応用ゲノム事務局（領域代表：辻 省次 教授）では、応用ゲノムの研究内容や進捗報告に加え、ゲノム研究と社会の間で生じるさまざまな問題を、マスコミの方々との間で気軽に情報交換が出来る「応用ゲノム懇談会」を開催いたします。

懇談会では、応用ゲノムの研究内容やゲノム研究と社会の接点に関する話題を提供してまいります。また、参加者の方々のご希望をお聞きして、トピックスやテーマを設定し、それに最も適した応用ゲノム研究者及び他の 3 領域（ ）の研究者の参加のもと、情報提供・交換会を 3 ヶ月に 1 回程度開催することを考えております。マスコミの方々からの情報提供も歓迎いたしますので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

（ 概要・申し込み先については次頁をご参照下さい。）

記

- 【開催日時】 平成17年5月13日（金曜日） 17:00-18:30
- 【開催場所】 東京大学医学部附属病院 管理研究棟 2階 第一会議室
- 【出席者】 東京大学医学部附属病院 神経内科 辻 省次 教授
東京大学医学系研究科 人類遺伝学分野 徳永 勝士 教授
- 【申込方法】 東京大学医学部附属病院 広報企画部までメールにてお申込み下さい。
締め切り 平成17年5月11日（水曜日）17:00まで
- 【病院地図】



【概 要】

文部科学省特定領域研究

「ゲノム情報にもとづく医学、微生物学の新展開（略称：応用ゲノム）」は平成16年度に発足し、平成17年度から平成21年度の予定で、計画研究、公募研究が開始されます。

本領域では、ゲノム科学研究の飛躍的な進展をうけて、さまざまな疾患の病因、病態機序を解明すること、ヒトの健康にとって重大な脅威となっている病原微生物の病原性などの機構を解明すること、有用生理活性物質の生産につながる有用微生物のゲノム情報基盤を解明することにより、人類の健康の増進、疾患の予防、治療へとその成果を機動的に社会に還元することを目的としています。さらにこのようなゲノム科学研究の飛躍的発展は、医療はいうまでもなく、社会全体にとってさまざまな接点を持ち、われわれの社会に与える影響が大きいと考えられます。このような社会との接点について、社会にゲノム科学研究の成果を伝えること、接点で生じる様々な問題を研究し、ゲノム科学研究の健全な発展、社会に大きく貢献することを目指しています。

本領域では、以上の考え方にに基づき、次のような研究の柱を設定しています。

- 1.ゲノム情報を基盤とした疾患遺伝子の探索・検証と医療への応用
- 2.臨床データとゲノム情報の統合を基礎とした疾患のシステムの理解と医療への応用
- 3.ゲノム情報に基づく微生物の有効活用
- 4.ゲノム解析による微生物病原性の解明
- 5.ゲノム研究と社会との接点に関する研究と活動

()なお、応用ゲノム（領域代表：東京大学医学部附属病院 辻 省次教授）に加えて、生命システム情報（領域代表：東京大学 情報生命科学 高木利久教授）、比較ゲノム（領域代表：国立情報学研究所 藤山秋佐夫教授）、基盤ゲノム（領域代表：国立遺伝学研究所 小原雄治所長）の3領域が同時に開始されており、これら4領域の代表が生命システム情報領域となります。

【応用ゲノムメンバー】

東京大学医学部附属病院 神経内科 辻 省次 教授

東京大学医学系研究科 人類遺伝学分野 徳永 勝士 教授

東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科 門脇 孝 教授

東京大学医学部附属病院 永井 良三 病院長

【お申込み先】

東京大学医学部附属病院 広報企画部（担当：安倍）

電話(直通)：03-5800-9188

e-mail: pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp

【懇談会の内容についての問い合わせ先】

東京大学医学部附属病院神経内科 教授室（担当：外山・楠原）

電話(代表)：03-3815-5411 内線(33780)

e-mail: genome3-office@umin.ac.jp
